

第 31 回中央委員会宣言

私たちは、年金の連続削減の流れを変えようと行政不服審査運動に取り組み、12 万 6 千人余の請求人を組織し、社会に大きくアピールしました。いま再審査運動に取り組みながら、総合 6 か年計画の第 3 年度第 1 期を果敢に闘い、史上最高の 920 支部 114,000 人の峰を超えて、第 31 回中央委員会を開催しました。

討論では不服審査運動での経験、教訓が語られ、安倍反動暴走政治に抗して闘う年金者組合の存在意義と、一層の奮闘の必要性が確認されました。

安倍政権は景気回復の幻想を振りまきながら、社会保障の解体、年金の削減、消費税や社会保険料の増額など高齢者、国民からの収奪を強め、一層厳しい生活を強いる動きを強めています。私たちは、年金削減中止の運動を 12 万 6 千人の不服審査運動から 20 万人請願大運動に発展させるとともに、裁判闘争の討議をするため準備に入ることを決めました。

3000 万高齢者の命と暮らしを守るために、何としても 20 万人年金者組合の力が必要です。仲間づくり、まちづくりの総合 6 か年計画をもち、日常的に拡大しながら、拡大月間ではさらに飛躍を追及し、目標達成のために力をつくします。

安倍暴走政治と対峙し、年金、医療・介護、生活保護、子育てなどと、地域住民要求を結合した共同を広げます。また各地方選挙や、いっせい地方選挙を要求実現の政治戦と位置づけ今から取り組みを強めます。合わせて憲法、集団的自衛権、原発など諸課題での「一点共闘」に参加し、高齢者・国民の願いや要求の実現に努めます。

仲間の絆を強めながら、地域のさまざまな団体・個人と手をつなぎ、現役世代と団結し、反動政治打破、要求実現の運動と全市町村に支部を、20 万人をめざす仲間づくり・まちづくりを発展させるため組織の総力を挙げて奮闘します。

以上宣言します。

2014 年 6 月 17 日

全日本年金者組合第 31 回中央委員会